

通信管更生工事(SKライナー工法)

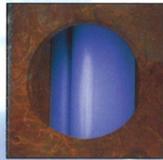
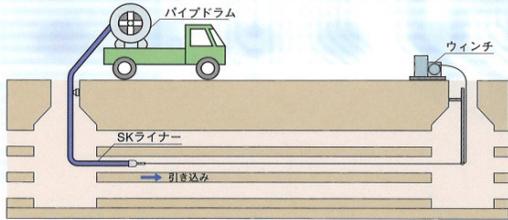
工場で管理された状態で製造されたSKライナーは、上記による加熱のみで円形に復元。現場では管の断面形状を円形に戻すだけで、化学反応（硬貨反応）の必要もなく、安全確実、スピーディーに施工が完了します。

非開削でスピーディーな施工。安全・確実・強固な管路構築。

施工フロー

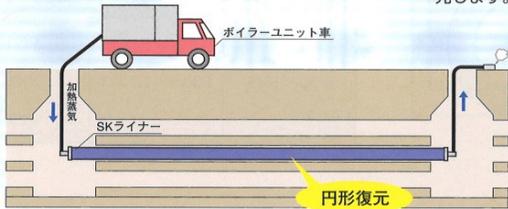
1 既設管への引き込み。

ハンドホールよりSKライナーを既設管に引き込みます。最長250mの管路を無接続で引き込み可能です。



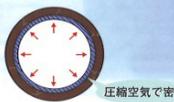
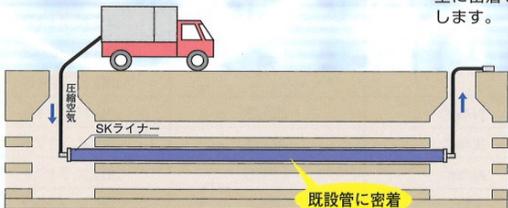
2 蒸気加熱で円形復元。

ボイラーユニット車よりSKライナーの内部に蒸気を送り込みます。蒸気によって加熱されたSKライナーは形状記憶効果により円形に復元します。



3 圧縮空気により既設管と密着。

円形復元後、低圧の圧縮空気(約0.1MPa)を送り込むことで、既設管内面に密着します。低圧をかけたまま空気で冷却することにより、完全に密着して、耐久性、耐食性に優れた塩ビ管による更生管路が完成します。

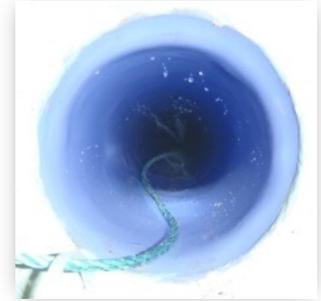


Ω状に折りたたまれた管

円形復元した状態

ライニング前

ライニング後



更生管路・工法の特徴

- 強度、耐久性、耐食性に優れた塩ビ自立管として更生。
- 内面が滑らかで摩擦抵抗が小さくなるため、低荷重で容易にケーブルの引込みが可能。
- 形状記憶塩ビ管は、蒸気加熱のみで円形復元、完全更生。
- 圧縮空気により既設管に密着。安全・確実に施工完了。
- スピーディーな施工で工期短縮・コスト縮減。
- 有機溶剤を使用しないため、臭気の発生なし。